

演劇の可能性への挑戦

みやぎしま はるか

宮城嶋 遥加 さん

人文社会科学部 言語文化学科
(2017年3月卒)

SPAC・静岡県舞台芸術センター 所属 (舞台俳優)

1994年生まれ、静岡県立清水南高等学校卒
趣味はヨガ。好きな言葉は「人生は演劇だ」。



撮影 芹澤真武

人文社会科学部の授業や研究に心惹かれて

静岡市で生まれ育ち、大学生活は馴染みの深い土地で過ごしたいと思いました。中高生の頃から関わっていたSPAC(Shizuoka Performing Arts Center)の劇場に、ずっと関わり続けたいと思い、静岡大学に入学しました。人文社会科学部には心惹かれる授業や研究が多く、俳優になった今も、様々な文学作品を舞台化する際に、授業を思い出し、よくノートを引っ張り出したりしています。

ダンス部で出会ったかけがえのない仲間たち

在学中はダンス部に所属していました。全国大会に向け、汗と涙を流して練習に励んだり、みんなで遠征旅行に行ったりしたことはかけがえのない思い出です。何より、仲間とともに何かを創り上げることの難しさ、それにも増す喜びを経験できたことはとても貴重でした。俳優として身体表現やダンスの経験を評価していただくことも多々あります。



在学中に演じたジュリエット役が転機に



舞台俳優の道に進むきっかけは、静岡大学在学中に芸術総監督から「ロミオとジュリエット」のジュリエット役をオファーいただいたことです。大学の先生方や友達にもたくさん応援していただき、稽古や本番の日々を重ねる中で、もっと演劇について知りたいという気持ちが強くなっていきました。

「演劇」という表現の可能性を広げたい

この仕事の一番のやりがいは、劇場に来てくださるお客様、演劇のワークショップや授業に参加してくれる子どもたち、海外で出逢うアーティストさんたちなど、様々な出会いがあることです。「演劇」という表現にどんな可能性があるのか、従来の方法とは異なる表現でどんなイノベーションが起こせるのか、今後も挑戦し続けたいです。



「自分の関心事は積極的に調べる」を今も大切に

今、フランスで演劇の仕事をする際に、自分の中で指針のような存在となっているのが、卒業論文で取り組んだ「日仏演劇交流に関する研究」です。親身になって対応してくださった先生方から「自分の関心のあることは積極的に調べて学んでみる」という最も大切な姿勢を学ばせていただきました。学生さんには大学生活でしか学べないことを思いっきり楽しんでほしいです。卒業生として、静大生の活躍をいつも応援しています。



宮城嶋さんが学んだ人文社会科学部について、くわしくはこちらから →



IoTで暮らしを便利にしたい

かわせ ゆうや

川瀬 雄也 さん

情報学部 総合科学技術研究科情報学専攻
(2020年3月卒)

株式会社 野村総合研究所 勤務
(システムエンジニア/技術調査員)

1995年生まれ、愛知県立安城東高等学校卒
趣味は「IoT製品の調査・試用」。好きな言葉は「先手必勝」。

「情報学」に強い静大へ

静岡大学情報学部は、国立大学では初めて設置された情報学を専門とする学部で、2年生からコースを選んで進学でき、入学後に自分の興味に合わせて進路を決められることに魅力を感じました。研究室で教授や先輩、後輩に刺激を受けながら実施したプログラミングや論文執筆、ビジネスアイデアの創出もすべてが今の自分の仕事に活かしています。



大学卒業の送別会は、今でも良い思い出です

最先端の技術に触れながら働いています



会社の同期と旅行へ

IoTの技術やシステムに興味を持っていたため、最先端の技術に触れながら、自分自身がワクワクしながら働きたいと考え、システムエンジニアの職を選びました。現在はお客様のビジネスに役立つような最新技術(ソフトウェアなど)の調査・報告やシステムを効率的なアーキテクチャに作り替える業務に従事しています。

資格取得や新たな活動にも挑戦

IT技術の先進的な変化に業務を通して携われることや、お客様に喜んでもらえるような調査結果やシステム開発ができたときにやりがいを感じます。現在の業務では、AWS(アマゾンウェブサービス)やGoogle Cloudといった技術について資格取得を進めています。今後

は社外の勉強会などにも登壇し、自分自身のバイネームでの評価を得られるようにコミュニティでアクティブに活動したいです。



AWSの資格をコンプリートし、AWS SUMMITに参加しました

学生時代に仲間たちと始めたbot作成

研究室のメンバー間で「ちょっと便利なものを作ろう」と話して始まったbot作成は、今でもダイレクトに自分の生活をちょっと便利にしてくれています。情報学部の友人の多くがIT系の企業に勤めており、浜松キャンパスには工学部もあるので、学生時代の友人を集めたら一つの事業を始められるのでは?とつい期待してしまいます。

とりあえずやってみよう!

学生時代に打ち込んだことや勉強したことは、自分が思っていたよりも役立つ機会がありました。学生さんには、役立つかもしれないから一応やっておく、という「とりあえずやってみる」マインドを持ってほしいです。そして大学には、今後も情報学部のプレゼンスを発揮し続けることを期待しています。



富士登山にも挑戦しました



川瀬さんが学んだ情報学部、総合科学技術研究科情報学専攻について、くわしくはこちらから →